

謹賀 新年

JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 年頭にあたってのご挨拶 … P1 □関係機関の皆様より、年頭のご挨拶 … P2
- 第2回自動車リサイクル会議参加レポート … P3,P4 □タイ政府関係者 日本の自動車解体業者を見学 / 北自協認定制度認定式への出席 … P5
- 第2回理事会を開催 / 各ブロック会議の報告 / 第2回自動車リサイクル士 更新講習会のお知らせ … P6
- 2023年度 駆動用 HV バッテリー共同出荷事業 11月出荷状況と今期累計 / 11月新車販売・使用済自動車発生台数 … P7
- 鉄スクラップ最新情報 … P8 □行事予定 / お知らせ / 編集後記 … P9

年頭にあたってのご挨拶

令和六年 元旦

明けましておめでとうございます。

1月1日に発生した能登半島地震で被害を受けた方々へ心よりお見舞い申し上げます。災害の中での苦しい状況をお察しし、一日も早い復興と安全な日々が訪れることをお祈りしています。

さて、去年はやっとコロナ禍もほぼ終息して、各地のお祭りや伝統行事も再開してきました。機構の去年は何と言っても7月の事務所が入居するビルでの爆発、火災事故を挙げないわけにはいきません。皆さまには大変ご心配をおかけしましたが、今年より新事務所で業務を行うことになりました。事務局は事務所が新しくなっただけでなく、昨年奥野事務局長が理事に就任し、更に9月には阿部参与が入職されました。新進気鋭の京野局員、私達のアイドルの川崎さんと合わせて、充実した強力な体制ができ非常に期待が大きいです。

業界を取り巻く状況は、新車販売が回復傾向にあるというものの、使用済み車の発生は相変わらず少ない状態が続き、その理由については機構のニュースレターやリサイクル促進センターでも統計数字をもとに、分析を試みましたがこれといった原因は特定できていません。そのような中で、気候変動を巡る世界のカーボンニュートラルへの動きは、ますます加速していると感じます。

関連して業界内では、2026年にスタートする資源回収インセンティブ制度に関心が高まっています。機構としても仕組み作りのための実証事業に取り組んでおり、徐々に制度の形が見えてきました。ただ機会あるごとに話をしますが、この動きは自動車リサイクルや自動車産業だけではなく、全社会、全産業の大きな変化であり、本格的な循環型社会への転換の大波だと思えます。この環境の変化を捉え、業界の生き残り、発展のために機構は大きな役割を果たすことができると考えています。そのために会員の皆さまの力を合わせる事が、最大のポイントになることは言うまでもありません。よろしくお願いたします。

新しい年を皆さんにとって干支のごとく、昇龍飛躍の年としたいものです。末筆ではありますが、本年が皆さまにとって、健康で幸せな一年でありますことを心から祈っています。

2024年1月
一社) 日本自動車リサイクル機構
代表理事 酒井 康雄



巻頭言

新年あけましておめでとうございます。

昨年末より量子力学の本を数冊読んでいます。人間にある波動には、低い波動・高い波動・そしてより高度な波動があり、同じような波動で共振するとのこと。低い波動はイライラしたり、原因を人の所為にしたたり、マイナス思考から出るもので、高い波動はワクワク、集中しているとき、プラス思考の時に出るそうです。驚くのは更に高度な波動は、「感謝と愛」とありました。

そして、実際に実験してみました。自分の身の回りに起こる事象に対して「感謝」、「ありがとう」を言い続けると、周りの人からも「沢山のありがとう」を受け取ることが出来ました。そして良い雰囲気が出来上がります。機構においても沢山の「ありがとう」が飛び交う一年となりますよう祈念しております。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004 東京都港区新橋2丁目11-10
BUREAU FIVE 708
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
H P: <http://www.elv.or.jp/>

関係機関の皆様より、年頭のご挨拶



経済産業省
製造産業局 自動車課
自動車リサイクル室長
原 充 様

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

また、日頃より、適正な自動車リサイクルの推進にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、コロナ禍で低迷していた経済活動が本格化し景気は緩やかに回復してまいりました。自動車業界においても、新車の生産・販売の回復が顕著となる中、新しい時代に向けてジャパンモビリティショーが成功裏に開催されるなど、こうした明るい話題は本年に向けた大きな布石になったものと思います。

昨今、国全体で資源循環経済の推進に取り組んでいる中、自動車リサイクル業界の皆様のご役割は益々重要となっております。私共としても、皆様と一緒に自動車リサイクルの更なる発展に取り組んでまいりたいと考えております。本年も、引き続き、皆様の一層のご協力をお願いするとともに、貴機構の会員皆様のご益々のご発展とご健勝を祈念いたしまして、私からの新年のご挨拶とさせていただきます。



環境省 環境再生・資源循環局
総務課
リサイクル推進室長
近藤 亮太 様

新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

関係機関の皆様におかれましては使用済自動車の適正なりサイクルに御尽力いただき深く御礼申し上げます。

環境省では、自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向け一昨年からの検討会を開催し、継続して議論を重ねてまいりました。本年は、さらに国際動向を踏まえ、関係省庁や関係団体と連携し、自動車リサイクルにおける再生材利用拡大に向けた産官学での取り組みを進めてまいりたいと思います。皆様方の一層の御協力を賜り、更なる自動車リサイクルの発展に向け取り組みたいと思います。

貴機構会員皆様方の御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
専務理事
永井 辰幸 様

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。自動車リサイクルの安定稼働に対する絶え間無い取組み、資源循環に向けた施策等 長期的視点に立ち改善、改革を進めておられる貴機構に敬意を表します。

今年も弊財団は自動車リサイクル制度の更なる安定化、資源循環型リサイクルの促進、そしてJARSの大改造等利便性向上に資するテーマに取り組む所存でございます。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人
自動車再資源化協力機構
代表理事
嶋村 高士 様

新年明けましておめでとうございます。

平素より自リ法3品目及びLiBリサイクルへご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。あわせて、自動車リサイクル士制度を通じた適正処理促進に敬意を申し上げます。

自再協は2024年に設立20周年を迎え、新たな経営方針を策定しました。循環型社会・カーボンニュートラル実現への貢献を使命とし、関係者をつなぐ存在としてより一層の連携を推進する所存です。次世代モビリティリサイクルや資源回収インセンティブ等の新たな取組みも貴機構の皆様と力を合わせて推進いたします。

本年の貴機構の益々のご発展ならびに会員各位のご健勝とご多幸をお祈りするとともにご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

12月13日(水)にAP浜松町(東京都港区)で「第2回自動車リサイクル会議」が開催されました。自動車リサイクルに関心を寄せる方々への情報提供と人的交流の促進を目的に開催され、正に自動車リサイクル業界の一大会議となっています。自動車リサイクルもEU指令をはじめとするプラスチック、ガラスといった新たな再生資源の取り組みがなされようとしています。多くの課題を抱える昨今、第一線で活躍されている関係者の皆様からどのような内容の講話を拝聴させて貰えるのが非常に興味深いものがありました。

今回この会議の内容や感じたことなど、参加した広報部会委員3名がまとめた参加レポート形式でご紹介をいたします。

第1部 2023年自動車リサイクル最新動向

第1部は、(公財)自動車リサイクル促進センター理事長 細田衛士氏から「我が国自動車リサイクルの目指すべき姿」、そして(公財)日本生産性本部エコマネジメントセンター長 喜多川和典氏からは「EUのCE(サーキュラーエコノミー)政策と新ELV規則案をめぐる動き」の演題で講演が行われました。

お二方の講演から感じた事は、将来の自動車リサイクル業界はサーキュラーエコノミー、いわゆる循環経済が中心となって形作られてゆくのではないかと思います。それは動脈経済と静脈経済が接合されることで実現される循環経済の構築、すなわち静脈側の再資源化の高度化によって、動脈側の天然資源投入が節約され、資源の循環効率を上げていこうとする経済システムです。

今後、キーワードとなるであろう用語がありました。「デカップリング」という言葉ですが、意味は経済成長と資源消費を切り離すこと、すなわち資源に依存しない経済システムを作ることをいいます。

喜多川氏はEUにおけるサーキュラーエコノミーの行動計画におけるデカップリングの進化について、これまでの「製品・資源の価値を最大化し、廃棄物を最小化させ、地球の再生能力を超える資源消費を、経済成長と比べ遅らせる経済モデルの構築」といった相対的なデカップリングから「地球から採取している以上に、地球に還元し、地球を再生させながら成長する経済モデルの構築」という絶対的なデカップリングに進化していると述べていました。「地球から採取している以上に、地球に還元し、地球を再生させる…」EUのこの発想には驚きました。自動車リサイクルに限らず、経済の目指すべき姿がここにあるように感じた次第です。



【細田 衛士氏】



【喜多川 和典氏】

第2部 自動車リサイクルの付加価値向上に向けた取組と展望

第2部では、「自動車リサイクルの付加価値向上に向けた取組と展望」がテーマとして掲げられ、3名の登壇者が各自の視点から講演をされていました。

株エコアール 代表取締役社長 石井浩道氏の講演は「自動車解体による再生資源の積極的な活用の取組と課題」というテーマで、自動車の全部利用処理台数が目標の80%に達していない理由として、電炉メーカーの受け入れが不足していることやプレスのサイズに制約があること、Aプレスの管理の難しさ、環境負荷低減のための処理料金の課題などを挙げられていました。また、樹脂の再資源化を促進するためには、資源回収の仕組み改善やリサイクル樹脂の価値向上、二次解体の簡素化のためのツール開発が必要であると述べ、最後に競争環境の健全性確保のためには、ELV等の処理の適正化や違法ヤードの取り締まりの強化、自動車リサイクル士(自リ士)を解体業許可・更新時の要件化とすることを提言されていました。

同業者として全部利用の問題・課題と樹脂の再資源化に対しての問題・課題が的確に分かり易くまとめられ、そして最後に「違法ヤードに対しての取り締まり厳格化」、「自リ士在職の要件化」など業界としての声を代弁して下さっていることが有難かったです。



【石井 浩道氏】

リバー(株) 事業本部執行役員 事業統括部部长 山下勇一郎氏の講演では「プラスチック資源循環システム確立に向けた現在の取組と今後の展望」をテーマとした様々な取り組みの紹介がありました。自動車リサイクル全体の課題として、資源の集める仕組み、解体工程の効率化・自動化、異物の除去・選別技術向上、リサイクル材の使いこなし、付加価値向上、リサイクルしやすい製品設計の必要性を強調しました。全国に分散したリサイクル資源を統合的に取り組むためには、動静脈で相互理解をより深め、互いに歩み寄りつつ知恵を出し合うなど、密な連携が必要不可欠であると述べられていました。



【山下勇一郎氏】

解体業界の現状分析が詳細で、私ども解体業者でも業界を客観的に見ることができ、現状から来年の方向性を考える大きな手掛かりになりました。ミクロとマクロで自動車リサイクル業界を掴んで綿密な戦略を立てられており、“中小企業である我々も努力しなければ”と刺激を受けました。

(公財)自動車リサイクル促進センター 業務執行理事 栗田聡氏からは「自動車リサイクルシステム大改造の最新情報」をテーマに、新しい自動車リサイクルシステムの取り組みを紹介されていました。システム改造の主要検討課題として業務効率性向上、新技術への対応とコスト抑制、将来の環境変化への拡張性確保を挙げ、2026年1月の新システム利用開始に向け着々と準備を進めているということでした。



【栗田 聡氏】

自動車リサイクルシステムの大改造ということで、主要検討課題という大きな括りから細かな部分への説明の流れで分かり易く、システムの全体像が見えてきたことで我々としても新システムに対しての期待と安心感を持つことが出来ました。

第3部 パネルディスカッション

～自動車リサイクルによる再生資源の価値向上の現在地とこれから～

講演された5名が「自動車リサイクルによる再生資源の価値向上」をテーマとし、情報や課題だけでなく、考え方などにも深く踏み込んだ内容でパネルディスカッションが行われました。(細田氏はファシリテーター)

山下氏の「再生資源の安定供給を目指すためには、動脈企業と静脈企業が相互の現場と課題を理解すること」、「コストと物量と品質はリンクしているため、その最適化を探っていかなければならない」ことが重要であると分かり、EC(欧州委員会)の規則案では新車生産に必要なプラスチックの25%以上を再生プラスチックにすることが含まれ、そのうち廃車由来は25%と定められています。今後日本にどのような影響があるかは未知数ですが、その25%中の25%を確保するためには再生資源の国内循環、安定的な供給、動静脈連携を行うことが重要なんだなと感じました。



【パネルディスカッションの様子】

喜多川氏は、ソーティングプラントの不足が再生資源の安定供給に影響を与える可能性について言及され、今後は地域ごとに回収拠点の整備が求められるのだろうなとイメージが浮かび上がりました。石井氏は回収プレーヤーである解体事業者の25%は外国人事業者(独自調査)であるという現状から、国籍に関わらず遵法・安全性・環境への意識が高次元で、真面目に事業を行っている者が皆同じ土俵で適正に競争が行える業界であるべきこと、栗田氏からは2026年に刷新される自動車リサイクルシステムにおいては、例えばLiBの在りかをシステム上で確認出来るなど解体の安定性への貢献や、20年以上の運用から蓄積されたビッグデータの活用による高度な資源循環の可能性などを示唆されました。

今回ディスカッションでは、再生資源の価値向上と循環には業界全体が協力し、知恵を出し合って取り組むなど、パートナーシップの重要性の認識を改めて深めることが出来ました。



11月29日(水)、タイ政府関係者(工業省、天然資源環境省、運輸省、財務省、エネルギー省)が、自動車リサイクル制度の構築支援研修の一環として、京葉自動車工業(株)更科工場(千葉県千葉市)の解体現場を見学しました。タイでは低炭素社会に向けた政策が進みつつある一方、廃車となる車両を適正に処理する自動車リサイクル制度に関する法制度が整備されていない状況です。

参加者からは制度や自動車リサイクル料金、設備に関する質問が時間ギリギリまで相次ぎ、日本のシステムを理解しようという熱意が感じられ、自動車のリサイクルという共通のテーマから国を超えたつながりを感じることが出来ました。この見学会は、経済産業省の「令和5年度技術協力活用型・新興国市場開拓事業(制度・事業環境整備事業)」を受託した(一財)海外産業人材育成協会(AOTS)によって実施されました。



【フロン回収現場見学の様子】



北自協 認定制度認定式&合同勉強会を開催



北海道自動車処理協同組合(北自協)では、「2023年度自動車解体事業評価認定制度認定式」&(一社)日本鉄リサイクル工業会北海道支部と連携した「合同勉強会」を12月8日(金)札幌市にて開催され、本部からは酒井代表理事、阿部参与が出席されました。

今回は7社から認定の申請があり6社(1社辞退)に認定証が授与されました。合同勉強会では、(株)北海道アルバイト情報社の塚田一仁様より「採用力向上セミナー」というテーマで、求人業界から見た“人手不足の現状”や、採用活動にあたっての取り組み方や自己採点のすゝめ、好事例の紹介などがありました。また、本部から出席した阿部参与からは「資源循環に貢献する自動車リサイクル」という題目で自動車リサイクルの現状とこれからの展望の説明があり、廃車が減っている現状について過去のデータを交えた分析、自動車メーカーの動向、プラスチックリサイクル原料調達の動きなどについて講演されました。



【認定式の様子】



【阿部参与講演の様子】

第2回 理事会を開催 ～事務所移転について～

04

第2回 理事会を開催 ～事務所移転について～

12月6日(水)に第2回理事会がZoomで開催されました。今回は7月に爆発火災に巻き込まれた事務所の現状報告があり、事務局機能の完全復旧及び勤務職員の安全性の観点から、今後移転を行うことが審議され、全会一致で決議されました。移転先、時期等は決まり次第ニュースレターでも報告いたします。



【理事会の様子】

各ブロックの活動報告

05

東北ブロック

12月1日(金)、天童ホテル(山形県天童市)にて東北ブロック会議が開催され、機構本部からは奥野事務局長が参加しました。

ブロックや支部での活動をより活性化するための意見交換、資源回収インセンティブ制度についての情報交換が行われました。また、会議に同席された“いその株式会社”の朝妻様から「プラスチックリサイクルの展望」についてご講演をいただき、ELVから回収するプラスチックの新たな可能性について参加者が理解を深めていました。

中部・北陸ブロック

12月7日(木)に株式会社吉田商会(愛知県豊橋市)にて、中部・北陸ブロック会議と、吉田商会の皆様にご協力いただいて現場見学会が開催され、機構本部からは埜村副代表が出席しました。

会議では主にブロック・支部活動費の活用方法の検討、ブロック内の体制、各地区から仕入状況等の情報交換が行われました。また、仕入に関して、とある地区では解体業者以外にも営業活動に力を入れてきているようだといった情報がありました。

自動車リサイクル士 更新講習会

第2回目は2月9日です!

06

自動車リサイクル士の更新講習会の第2回目は2024年2月9日(金)に開催となります。こちらの講習にお申込みいただいた方には、1月末にテキストが順次発送されますので、お受け取りの程よろしくお願いたします。なお、1回目もしくは2回目のどちらかを受講いただくことが資格更新の条件となりますので、既に1回目の更新講習会(2023.12.8)を受けられた方は今回受講不要ですのでご注意ください。

ニュースレター購読申し込み



【登録】以下のURLからお申込み下さい↓

<https://forms.office.com/r/vast5G9cq9>

ニュースレターへのご意見・ご要望・情報提供はこちらから▶

<https://forms.office.com/r/eZgjntdcVZ>

2023年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業

11月出荷状況と今期累計

07

上段：11月出荷数 下段：今期累計 単位：個

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルダラー	クラウンHV GWS204	クラウンHV AWS210
20	8	28	0	0	59	8	0	0
64	61	302	3	0	442	13	6	6

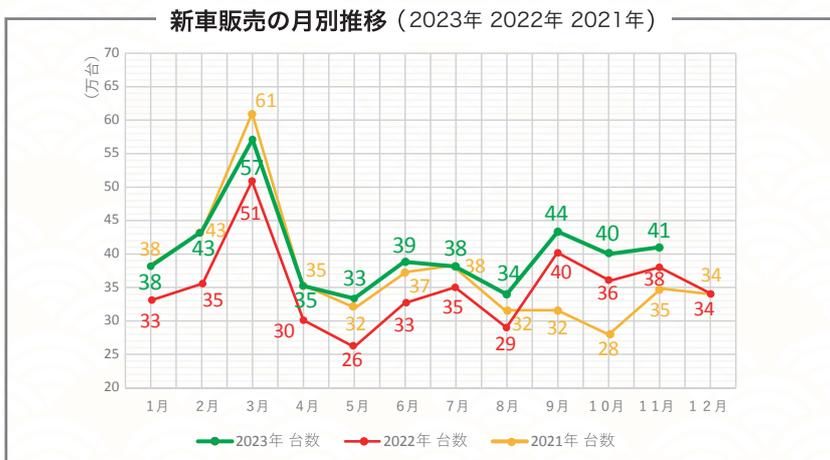
SAI/レクサス HS250H	日産デュロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	プロボックス サクシード	マツダ アクセラ	不良品 A-C	合計
0	0	2	0	0	0	0	5	110
8	60	16	3	3	0	1	148	1072

□2022年度の結果はこちら▶ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1853>

11月新車販売・使用済自動車発生台数

08

■2023年11月度 新車販売台数 411,089台 (前年同月比109.0%)

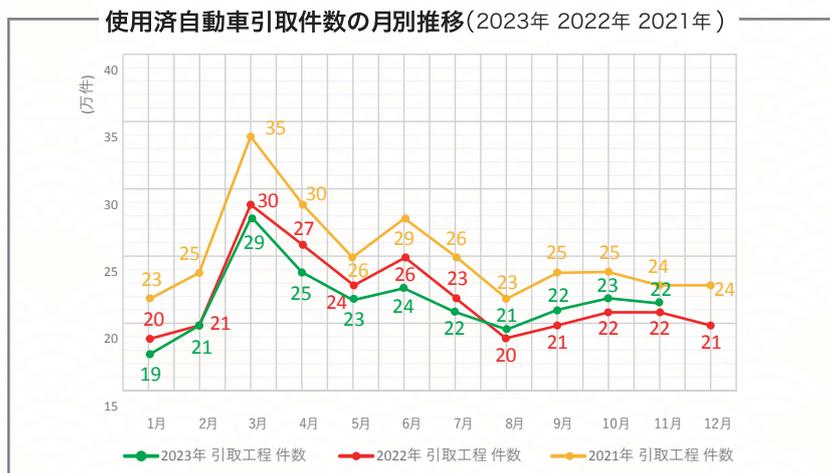


過去の/new車販売台数推移

年累計	台数	前年比(%)
2023年 (11月まで)	4,416,247	114.5
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2023年11月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数	
11月	223,394件 (前年同月比102.0%)
フロン回収工程	
11月	198,229件 (前年同月比102.6%)
解体工程	
11月	229,501件 (前年同月比101.4%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

12月第4週(25日)の鉄スクラップ動向



12月25日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,000 ~ 52,000	様子見
	南関東	50,000 ~ 52,000	様子見
	浜値	49,500 ~ 50,500	様子見
名古屋		49,000 ~ 51,000	様子見
関西	大阪	50,500 ~ 52,000	様子見
	姫路	50,500 ~ 51,000	様子見

国内市場 全国的に様子見商状 電炉筋が順次集中炉休入り

国内市場の鉄スクラップ市況は全国的に様子見商状の推移となっている。需要家筋は12月9日以降、500円ほどの小幅な値上げを実施してからは、海外相場が上げ一服したことなどもあって、概ね様子見の姿勢を維持している。また、一部電炉が年末年始の集中炉休期間に入っており、今後順次、集中炉休を実施する計画だ。このため、電炉筋は引き合いを強める局面にはない。湾岸商社・シッパー筋も年内の船積み日程が少ないこと、海外相場が上げ一服していることなどから、やはり引き合いを強める状況にはないのが現状だ。

市中間屋筋は、年末に向けて手持ち在庫の出荷を進める姿勢だ。一方で電炉筋は順次、炉休を実施する予定となっており、現時点でも荷止や荷受制限を実施している電炉筋もある。このため、鉄スクラップの売り先が徐々に狭まる状況となっており、荷受を行っている需要家筋の入荷が好転している。

トルコ輸入相場は2週間にわたり様子見商状

トルコの輸入鉄スクラップ相場は12月8日前後を最後に新規成約が聞かれず、ここから22日まで様子見商状にある。米国玉HMS1&2(80:20)は8日にCFR425ドル強を付け、この価格水準が気配値となり2週間にわたり横ばいで推移している。12月下旬は年末の休暇が近く、上場要因には乏しい状況だ。

【関東地区】 一部電炉が炉休・荷止へ、様子見商状

関東市場では、主要電炉16事業所のうち5事業所が12月25日時点で年末年始の集中炉休期間に入り、2事業所が年内の鉄スクラップ荷受を終了している。市中間屋筋は年末に向けて手持ち在庫の出荷を進める姿勢で、荷受中の電炉筋の入荷が好転。このため電炉筋は購入価格を維持したまま、様子見の姿勢を維持している。H2炉前実勢価格は50,000~51,500円中心、高値52,000円見当。H2浜値は49,500~50,500円中心で様子見商状。

【東海地区】 メーカーは模様眺めも比較的安定した入荷を維持

名古屋地区の鉄スクラップ市場では、12月下旬を迎えても地区電炉メーカーは模様眺めに徹しており、購入価格に変化は見られない。こうした中、ヘビーなどの一部の品種は発生が芳しくないこともあり、需給のタイト感は一方向に解消されていない。ただ、不足分も概ね他地区からの調達により賄い、12月前半の値上げ改定以降は各社とも比較的安定した入荷量を維持している。H2炉前実勢価格は49,000~50,500円中心、高値51,000円見当。

【大阪地区】 12月22日から一部下げ改定で上値が重い展開

大阪地区の鉄スクラップ市況は、概ね様子見商状だ。ただ12月22日から一部の炉休筋が入荷抑制に向けて値下げを行ったため、全体としては2023年内にかけては上値の重い展開となっている。12月末入りを前にし、価格レベルの異なりを背景に、電炉入荷にバラつきが生じており、品種によってはタイト化が残っている。H2炉前実勢価格は、大阪地区が50,500~52,000円、姫路地区が50,500~51,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、12月25日午後時点のもの)

行事予定

—令和6年1月の主な行事予定—



■1月9日 (火)

・J-FAR (エアバッグ布等リサイクルのための基盤づくり) 定例会 (対面&WEB)

■1月10日 (水)

・第9回 広報部会 (WEB)

■1月17日 (水)

・第3回 未来部会 (対面)

■1月18日 (木)

・J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会 (WEB)

■1月24日 (水)

・第1回 関東ブロック会議 (対面)

■1月26日 (金)

・産業構造審議会産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会自動車リサイクルWG 中央環境審議会循環型社会部会自動車リサイクル専門委員会 第58回合同会議 (WEB)

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

お知らせ

～自動車リサイクル促進センター (JARC) より～

自動車リサイクルシステムの稼働停止日等のご案内

平素より「自動車リサイクルシステム」の運用におきまして、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、「自動車リサイクルシステム」では、例年、データやシステムの整備を行うために、稼働停止日を設けておりますが、来年度も下記リンク先のとおりシステムを停止させていただきます。皆様方にはご不便をおかけいたしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

↓詳細はこちらをクリック↓

<https://www.elv.or.jp/media/20/20231205-2024JARSkadouteisi.pdf>

編集後記



2023年も思い起こせばあっという間の一年でした。出来事を一つ一つ振り返れば数えきれないくらい多くの災害、事件、犯罪等々があり、決して素晴らしい年だったとは残念ですが思えません。今年こそは良い年になって欲しいと願っているのは私だけではないでしょう。

でも、今年も以前より心配されている諸問題が山積みされているように思われます。何といても、私達業界にも大きな影響が出てくるであろう「2024年問題」です。働き方改革の一環で、労働時間の上限規制が強化され、特に物流業界に大きな影響を与えることが予想されます。また、「20XX年問題」はこれから先も色々あるようで、2025年は団塊の世代が75歳以上となり超高齢化社会を迎え、社会保障費の急増などが危惧されています。

しかしながら、我が機構においてはこのような暗い話ばかりしているような暇はありません。素晴らしい発想を持ち、素晴らしい事業を計画しても、所詮活動する為の原資、つまり資金がなければ何事も成し遂げられません。その資金は取りも直さず会員の数に影響されます。

新しい年を迎えた日本自動車リサイクル機構は酒井代表の指針の下、3つの部会 (リサイクル技術部会、未来部会、広報部会) が三位一体となって会員増強に全精力を懸けるくらいの意気込みを持って組織の強化を図り、会員が希望を持って安心して仕事ができる業界作りを目標に、この1年突っ走っていききたいものです。

(広報部会 部会長 田村 幸男)